

厚生会館地区整備の基本理念



平成18年5月
新潟県長岡市



～はじめに～

現在の厚生会館は、かつての「長岡市公会堂」の時代から多くの市民に親しまれている施設ですが、建設から50年近くを経過し、建て替えの時期を迎えています。

JR長岡駅前に位置する中心市街地は、鉄道やバスの路線が集中し、高齢者や若者、子供たち、障害者の方、子育て中のお母さんなど、誰もが訪れやすいという特長を備えており、老朽化した建物を建て替え、厚生会館の機能を継承する必要があると考えています。

過去には、「長岡文化創造フォーラム」構想が検討されましたが、約130億円という建設費負担により市の財政が悪化するのではないか等、多くの疑問の声があったため、計画を白紙に戻しました。

平成12年に実施した全世帯アンケート調査では、現在の厚生会館と同等かプラスアルファ程度の施設を建て直してはどうかという意見のほか、地区全体を公園にという意見も多数寄せられました。しかし、中心市街地には、誰もが容易に訪れることができるという、他の地区にはない長所があります。中心市街地の空きビルを借りて設置した「ながおか市民センター」は、中心市街地を頼りにされている多くの方々のニーズに応える施設であり、平成13年10月の開設以来、大勢の市民に利用していただいています。

このように、中心市街地には多くの利点があり、この地区を思い活用してくださっている市民が大勢いらっしゃることから、平成16年3月に「長岡市中心市街地の構造改革に関する提言」の中で、厚生会館地区に新たな市民力拠点となる「平成の公会堂」を建設することが提唱されました。

また、平成16年度には、国土交通省の支援制度として「まちづくり交付金」が創設され、国の補助金を活用できるようになり、財政面からも厚生会館の建て替えに着手できる環境が整いました。さらに、広域合併による市域の拡大に伴い、市内各地から鉄道・バスを乗り換えることなく訪れることができる長岡駅周辺の利便性は、再認識されています。

これらの状況を踏まえ、先般、厚生会館地区整備の基本構想を策定し、市民の皆様から構想に対するご意見をお聞きしたところですが、あらためて、地区整備における基本的な考え方であり、また、厚生会館地区整備基本構想の根本となっている5つの基本理念について、市民の皆様にお示しするものです。

1 高齢者・障害者等が訪れやすく

- 公共交通機関の結節点であり、あらゆる人が集まることができる場所
- 低料金で誰もが気軽に利用しやすい施設
- 誰でも自由に訪れ、気兼ねなく利用できるまちの休憩スペース



舞踊の教室



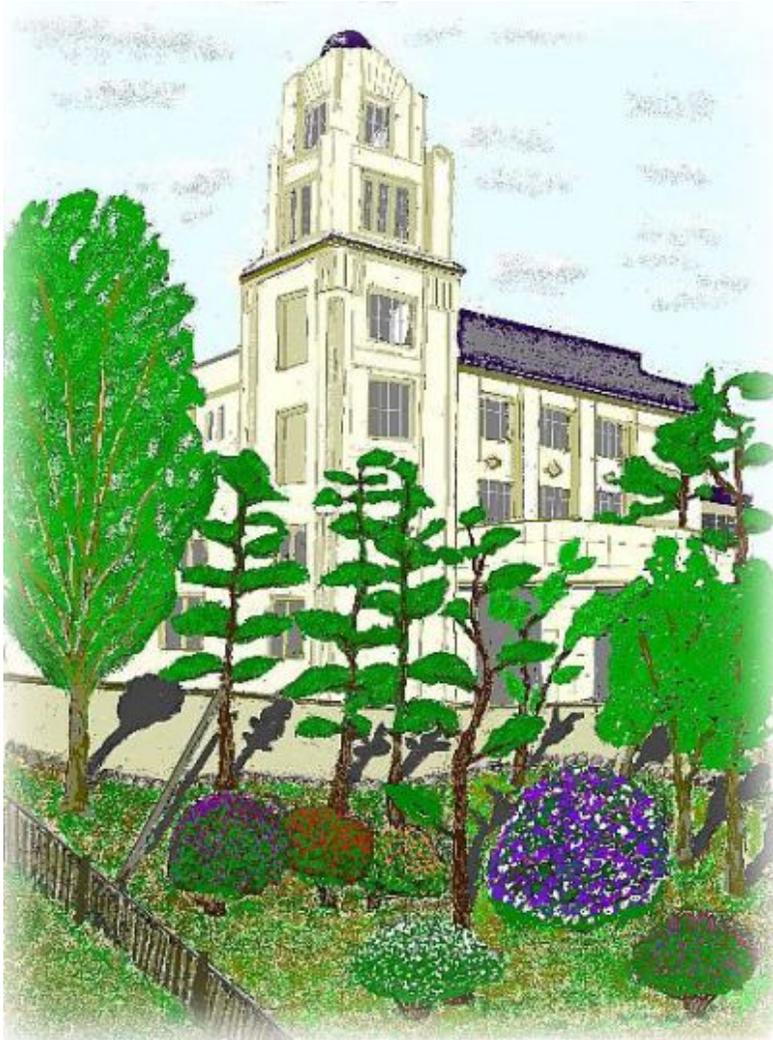
高齢者とのふれあい



ちいさなお子様連れでも気軽に

2

シンボル性



長岡市公会堂(大正末期~昭和32年) 画: 斎木勝郎

■ 長岡市のシンボル性の表現

- 新長岡市の中心市街地としてのシンボル性
- かつての「長岡市公会堂」のように市民が気軽に集えて、末永く愛着の持てる佇まい
- 長岡城の二の丸跡地としての歴史性の継承

3 通年利用可能な広場

■ 雪国の中心市街地にふさわしい 冬期・真夏の利用を考えた広場

ー 長岡セントラルパーク

冬期間の遊休地を
新しいスポーツ空間などとして
活用できる、全天候型の広場に

ー 宝田公園

天候の影響を受けにくい
利用価値が高い、屋根付き広場

若者たちによる賑わいのスペースへ



雪に閉ざされた長岡セントラルパーク



冬期の利用価値が低い宝田公園



～ 例えば ～

- ・開閉式の屋根を備えたインドア広場
- ・側壁が上下に可動する屋根付き広場

⋮

4 若者が集う



ミニライブ



フリーマーケット



ストリートバスケットボール

■ 宝田公園・屋根付き広場

まちの休憩スペース

- ミニライブ
- ストリートバスケットボール
- ストリートダンス
- フリーマーケット
- 憩いの空間

■ 長岡セントラルパーク

冬でも使える全天候型の広場

- 芝生の広場
- フットサル場など

「まちなかスポーツ広場」の設置

5 賑わいの創出

■ 多目的アリーナ

十分な広さと大きさを確保し、様々なイベントに対応可能な柔軟性に富んだ空間

■ 宝田公園

多くの人々が気軽に訪れ滞留することが可能な前庭的空間を創出

■ 市民活動ホール

気兼ねなく利用できるフリースペースなどを備え、市民の様々な交流や活動を支える空間

■ オープンカフェ

広場に整備することで、活気溢れる室内外の連続的な空間を創出



アリーナでのスポーツイベント



賑わいのスペース: 宝田公園



フリースペース、オープンカフェ